

学会員 (教員) 研究動向 [2019.4 ~ 2020.3]

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
青山 芳文	その他 (企画・司会)	「学校におけるコグトレの活用」(第2回コグトレ研究会研究大会 自主シンポジウム, 於: ウィンクあいち)	2019.8
	その他 (企画・報告)	「学習の土台となる認知機能強化のための指導・支援」(日本LD学会第28回大会 自主シンポジウム, 於: パシフィコ横浜)	2019.11
	その他 (指定討論)	「学校における認知機能向上のためのシステム導入」(日本LD学会第28回大会 自主シンポジウム, 於: パシフィコ横浜)	2019.11
秋葉 武	論文(単著)	「NPOの組織診断」(『日本経営診断学会報告論集』52)17-21頁	2019.9
	研究発表等 (単独)	「NPOの組織診断」(日本経営診断学会第52回全国大会, 於: 高千穂大学杉並キャンパス)	2019.9
	研究発表等 (単独)	「韓国の市民社会と社会的企業」(日韓NPO研究会, 2019/9/30)	2019.9
有賀 郁敏	研究発表等 (単独)	「ドイツにおける結社の歴史的意味—「社会的 (social)なもの」に着目して—」(シンポジウム2 〈日本体育学会, 体育史学会, 日本体育・スポーツ哲学会共同企画)「民間スポーツ組織の主体的ガバナンスを考える—日独英の比較から—」, 日本スポーツ体育健康科学学術連合会第3回大会, 於: 慶應義塾大学)	2019.9
	その他(単著)	「日々のおしへ」再考—丸山眞男から問い直す現代社会」(『卒業論文集—余暇社会の歴史と現代』, 立命館大学産業社会学部有賀郁敏ゼミ)1-10頁	2020.3
飯田 豊	著書(単著)	『メディア論の地層—1970大阪万博から2020東京五輪まで』(勁草書房)全304頁	2020.2.
	著書(共編著)	『趣味とジェンダー—〈手づくり〉と〈自作〉の近代』(神野由紀・辻泉・飯田豊編著, 青弓社)13-32・311-340頁	2019.6
	論文(単著)	「ザ・テンプターズからの飛躍—萩原健一の源流」(『ユリイカ』2019年7月臨時増刊号, 青土社)40-52頁	2019.6
	論文(単著)	「メディアのなかの考現学—アカデミズムとジャーナリズム、エンターテインメントの狭間で」(『現代思想』2019年7月号, 青土社)135-145頁	2019.6
	論文(単著)	「磯崎新のメディア論的思考—マクルーハン、環境芸術、大阪万博」(『現代思想』2020年3月臨時増刊号, 青土社)227-241頁	2020.2
	論文(単著)	「拡張現実 (AR)の現在地—渋谷から考える」(『CEL』124号, 大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所)20-25頁	2020.3
	論文(単著)	「SNSをめぐるメディア論的思考—常時接続社会におけるマスメディアとの共振作用」(『通信サイエティマガジン B-plus』52号, 電子情報通信学会)276-281頁	2020.3
	研究発表等 (共同)	「フィルムから ENG へ—ニュース生産における送り手の文化と慣習を巡る人類学的研究」(林田真心子・飯田豊, ビデオの文化資源学, 於: 大東文化会館)	2020.2
	その他(単著)	「19世紀からポスト真実/識別より「耐える力」重要 (佐藤卓己『流言のメディア史』(岩波新書, 2019年)書評)」(『週刊東洋経済』2019年5月18日号, 東洋経済新報社)111頁	2019.5
	その他(単著)	「N国が話題の中、NHK「常時同時配信」が放送業界全体に与える衝撃」(講談社現代ビジネス, 講談社)https://gendai.ismedia.jp/articles/-/66703	2019.8

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
飯田 豊	その他(単著)	「参院選からみたテレビ報道—新しい番組フォーマットの開発を」(『民間放送』2019年9月3日号、日本民間放送連盟)2頁	2019.9
	その他(単著)	「テレビ草創期のCMを多角的に解明する—考古学的アプローチから見えてくる初期CMの全体像(高野光平『発掘!歴史に埋もれたテレビCM—見たことのない昭和30年代』(光文社新書、2019年)書評)」(『週刊読書人』3305号、読書人)9頁	2019.9
	その他(共著)	「特集 平成の日本美術史30年総覧」(『美術手帖』2019年6月号、美術出版社)116-139頁	2019.6
	その他 (同会パネリスト等)	「メディア研究をめぐる組織と時間—学会将来構想はいかにして可能か」(飯田豊・大澤聡・江渡浩一郎・水越伸、日本マス・コミュニケーション学会 秋季研究発表会、於：江戸川大学)	2019.10
石倉 康次	著書(共著)	『部落問題の解決に逆行する「部落差別解消推進法」』(奥山峰夫・梅田修他、部落問題研究所)65-80頁	2020.3
	論文(単著)	「統計不正はリストラ問題か、それとも擬装なのか」(『人権と部落問題』5月号)1頁	2019.5
	論文(単著)	「老後資産2000万円問題が提起すること」(『人権と部落問題』10月号)1頁	2019.10
	論文(単著)	「『人権意識調査』の視点と方法—何が問題か—」(『人権と部落問題』)6-17頁	2020.3
	研究発表等 (単独)	「なぜ国は今、「全世代型社会保障」を推し進めるのか」(第24回合宿研究会 人権・権利の再発見～95年勧告から25年 社会福祉の権利とは～)	2020.1
石田賀奈子	論文(共著)	「里親養育支援の実態とその支援が里親の里親養育支援に対する満足度に与える影響」(野口啓示・高橋順一・姜民護・石田賀奈子、千賀則史、伊藤嘉余子、『社会福祉学』60巻3号、日本社会福祉学会)28-38頁	2019.11
	研究発表等 (共同)	「養育困難を訴える里親に必要な支援—里親からの養育困難との訴えから委託解除となった事例の検証—」(伊藤嘉余子・千賀則史・野口啓示・石田賀奈子、日本社会福祉学会第67回秋季大会、於：大分大学)	2019.9
	研究発表等 (共同)	「里親不調を経験した里親に対する里親養育支援の実態」(野口啓示・高橋順一・姜民護・石田賀奈子・伊藤嘉余子、日本社会福祉学会第67回秋季大会於：大分大学)	2019.9
石田 智巳	著書(分担執筆)	『日本の民主教育2019』(森敏生・鎌田克信・金井多恵子・野井真吾・石田智巳他、大月書店)173-175頁	2020.1
	論文(単著)	「“戦後学校体育の原点とスポーツの捉え方—丹下保夫と佐々木賢太郎が見たスポーツの未来—」(『運動文化研究』36号)14-24頁	2019.6
	論文(単著)	「失敗事例を「話す・聞く／書く・読む」ことの意義—失敗事例から学ぶ」(『体育科教育』68巻1号)16-19頁	2020.1
	研究発表等 (共同)	「体育授業における学習課題の対象化と共有化:学習活動の創発性を視点として」(森敏生・丸山真司・石田智巳・玉腰和典、日本スポーツ教育学会第39回大会、於：早稲田大学)	2019.9
市井 吉興	論文(単著)	「『アーバンスポーツ』と2020東京オリンピック:国際オリンピック委員会が期待する「スポーツの都市化」とは何か?」(『唯物論研究年誌』24巻、唯物論研究協会編)170-182頁	2019.10
	論文(単著)	「『ニュースポーツ』とスポーツツーリズム:スポーツツーリズムの資源としての「ニュースポーツ」の可能性とは?」(『観光学評論』8巻1号)71-83頁	2020.3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
市井 吉興	研究発表等 (単独)	「「ニュースポーツ」とスポーツツーリズム: スポーツツーリズムの資源としての「ニュースポーツ」の可能性とは?」(第8回観光学術学会大会)	2019.7
	研究発表等 (単独)	「2020 Tokyo Olympic Games and Lifestyle Sports: What is the current state and issues of lifestyle sports in Japan?」(Leisure Studies Association (LSA) Annual Conference)	2019.7
	研究発表等 (単独)	「IOCが提案する「スポーツの都市化」とは何か?: ライフスタイルスポーツ・アーバンスポーツ・FISE」(日本スポーツ社会学会研究セミナー (関西))	2020.1
	研究発表等 (単独)	「2020 Tokyo Olympic Games and Lifestyle Sports: What is the current state and issues of lifestyle sports in Japan?」(CRITICAL TOURISM STUDIES (CTS) ASIA-PACIFIC 2nd CONFERENCE)	2020.2
	その他(単独)	「NHK Eテレ あしたも晴れ! 人生レシピ「個人も地域も元気ハツラツ! スポーツを楽しむ」(「講師」として出演, 2019年6月21日)	2019.6
	その他(単独)	「「創造的復興」と2020東京オリンピック」(立命館土曜講座, 2019年12月21日)	2019.12
伊東 寿泰	論文(単著)	「論評「ヨハネ1章1~5節 創造の時に起きたこと」」(『信徒の友』)61頁	2019.6
	論文(単著)	「論評「ヨハネ1章51節 注意を促す『アーメン』」(『信徒の友』)55頁	2019.9
	研究発表等 (単独)	「マタイ福音書5章1-12節の須藤見本原稿に関する読者の応答」(NTJ研究会)	2019.9
乾 亨	論文(単著)	「真野まちづくりを通して考える~地域自治の新しい仕組みの可能性」(クッド研究所編, 『造景』2019, 建築資料研究所)192-203頁	2019.7
上原 徳子	論文(単著)	「浅析万歴前期松江的詩社活動」(『明清詩文国際学術研究会論文集』)423-432頁	2019.11
	研究発表等 (単独)	「(翻訳)王晋康『天に替わりて道を行う』(上原徳子 (115頁には校正ミスにより別人の名前が記載されている), 『アジア文化 特集』)86-115頁	2019.10
	研究発表等 (単独)	「浅析万歴前期松江的詩社活動」(明清詩文国際学術研究会)	2019.11
	研究発表等 (その他(パネリスト))	「円卓会議 明清詩文研究再出発 発言者(7名の内の1名)」(明清詩文国際学術研究会)	2019.11
	その他(単独)	「不思議なことは話しちゃいけない? 中国文学の世界」(産業社会学会「アドバンストセミナー」10月18日, 於: 以学館1階ラウンジ前)	2019.10
	その他(単独)	「2019年10月中国古典文化講座「日本に伝わった中国古典小説—『牡丹灯記』を例に一」」(中国古典文化講座, 10月26日, 於: 立命館孔子学院講義室)	2019.10
文 楚雄	論文(単著)	「政論文体におけるアスペクト助詞「了」について」(『立命館文学』第667号, 立命館大学人文学会)193-205頁	2020.3
漆原 良	論文(共著)	「サッカーにおけるキックの正確性に関するコーディネーション能力について」(細野裕希・漆原良, 『立命館産業社会論集』55巻1号)293-302頁	2019.9
	論文(共著)	「上腕腹側への人間の手掌による接触が力量調節を伴う肘関節屈曲動作課題の学習に及ぼす影響」(漆原良・山本真耶子, 『日本生理人類学会誌』24巻3号)107-116頁	2019.9
	研究発表等 (単独)	「動作系列情報による予測を含むボール・キック方向に対する反応動作時の脳電位変動」(第27回 日本運動生理学会大会)	2019.8

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
江口 友朗	論文(単著)	「アジア諸国での私的な金銭の相互援助を巡る制度論的試論：タイ・インドネシア・カンボジア・韓国の実態から」(『経済科学』67巻3号, 名古屋大学大学院経済学研究科)pp.1-12	2020.3
遠藤 保子	著書(監修)	『映像で学ぶ舞踊学～多様な民族と文化・社会・教育から考える～』(監修：遠藤保子、編・著者：弓削田綾乃・高橋京子・瀬戸邦弘・相原進, 大修館書店)	2020.3
	研究発表等(単独)	「4. 私にとっての在外研究 4・1. ドイツ・アフリカ：研究の基盤形成と人的ネットワーク」(『News Letter』vol.17, 舞踊学会編集)9-11頁	2019.11
呉 世雄	著書(単著)	『韓国における社会的経済組織の育成政策と経営実態』(全国勤労者福祉・共済振興協会)1-48頁	2019.6
	著書(共著)	『コミュニティソーシャルワークの新たな展開』(宮城孝・菱沼幹男・大橋謙策ほか, 中央法規)121-133頁	2019.6
	著書(共著)	『地域デザイン思考—地域と向き合う82のテーマ』(北樹出版, 地域デザイン科学研究会)186-187頁	2020.3
	論文(単著)	「日本の農福連携の現状と示唆」(『月刊 福祉ジャーナル』138号, 韓国社会福祉協議会)70-73頁	2020.2
	論文(単著)	「日本の社会福祉法人改革」(『月刊 福祉ジャーナル』139号, 韓国社会福祉協議会)66-69頁	2020.3
	論文(共著)	“An Exploratory Study on Management Efficiency of Social Enterprises and Influencing Factors : Focusing on the Relation Between Corporate Characteristics of DEA Efficiency Scores and Business Performance Indicators” (Oh Se-woong, Kim Oh-seop, “Social Welfare Policy and Practice” 5巻1号) pp.5-37.	2019.6
	論文(共著)	「農福連携による障害者就労の現状と課題—農業法人の経営者へのアンケート調査を基に—」(呉世雄・原田淳・山根健治, 『地域デザイン科学』7号)65-76頁	2020.2
	研究発表等(単独)	「韓国における社会的経済組織の育成政策と経営実態」(全労済協会2017年度公募委託調査研究報告会, 於：全労災協会会議室)	2019.4
	研究発表等(単独)	「日本におけるコミュニティケアシステムの構築経験と韓国への示唆」(釜山大学校社会科学研究院 2020年国際学術大会, 於：釜山大学校)	2020.1
	研究発表等(共同)	「韓国の社会的経済育成政策の変遷と現状分析」(李省翰・呉世雄, 第33回日本地域福祉学会, 於：川崎医療福祉大学)	2019.6
	研究発表等(共同)	「日本の地域包括ケアに関する実践事例分析」(高田麗・呉世雄, 2019年韓国地域社会福祉学会秋季学術大会, 於：Hoseo Univ.)	2019.11
その他(同会パネリスト等)	「日韓の社会的企業による地域福祉実践—実践知の共有と拡散」(李龍宰・川本健太郎・呉世雄 (コーディネーター), 藤井敦史 (コメンテーター), 第33回日本地域福祉学会日韓学術交流企画, 於：川崎医療福祉大学)	2019.6	
その他(同会パネリスト等)	「地域社会統合ケアの争点と課題」(2019年韓国地域社会福祉学会秋季学術大会)	2019.11	
大谷いづみ	著書(分担執筆)	「第13章 安楽死と尊厳死」(伏木信次・樫則章・霜田求編『生命倫理と医療倫理 第4版』, 金芳堂)144-153頁	2020.3
	研究発表等(単独)	「優生保護法と安楽死・尊厳死運動史」(「第2回生命倫理政策史研究会——優生保護法史の多角的検討」)	2019.8

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
大谷いづみ	研究発表等 (単独)	「障害と安楽死・尊厳死言説——高齢化社会における「死ぬ権利」と「死ぬ義務」(第9回障害学国際セミナー 2019)	2019.10
	研究発表等 (共同)	「ハンドル形電動車いすの移動アクセシビリティ——英米仏独伊韓の実態調査」(大谷いづみ・川畑美季, 障害学会第16回京都大会)	2019.9
大谷 哲弘	著書(共著)	『自立活動の視点に基づく高校通級指導プログラム—認知行動療法を活用した特別支援教育』(小関俊佑・高田久美子・嶋田洋徳・杉山智廣・新川瑠子・一瀬英史・大谷哲弘・山本奨著, 金子書房) 1-11頁	2020.2
	著書(分担執筆)	『健康心理学事典』(健康心理学会 (編), 丸善出版) 536-537頁	2019.10
	論文(共著)	「キャリアビリーフの介入研究に関する課題」(森本康太郎・大谷哲弘著, 『大阪国際大学国際研究論叢』33巻1号) 85-93頁	2019.11
	論文(共著)	「東日本大震災被災生徒における自閉症スペクトラム傾向と外傷後ストレス反応および抑うつとの関連の検討」(瀧井綾子・久保佑貴・渡邊明寿香・八木咲亜耶・大谷哲弘・小関俊祐・伊藤大輔著, 『ストレス科学』34巻) 1-6頁	2019.12
	論文(共著)	「教職大学院における子ども支援力開発実習の計画と実践」(山本奨・大谷哲弘・伊藤綱俊・村上貴史著, 『岩手大学大学院教育学研究科研究年報』4巻) 191-204頁	2020.3
	研究発表等 (単独)	「高等学校新入生の学級づくりに焦点を当てた心理的支援」(『日本教育心理学会第61回総会発表論文集』)	2019.9
	研究発表等 (共同)	「マインドフルネスに基づく心理教育と実践がトラウマ体験者の PTSD と抑うつ・不安反応に及ぼす効果」(渡邊明寿香・久保佑貴・瀧井綾子・小関俊祐・大谷哲弘・伊藤大輔, 日本認知・行動療法学会 第45回大会)	2019.8
	研究発表等 (共同)	“A support process for high school students' employment: Act-cognition interaction model” (TAKESHITA, H. & OHTANI, T., Poster session presented at the Psychology of Education Section Annual Conference 2019)	2019.9
	研究発表等 (共同)	「就職を希望する普通科高校生のキャリア選択に対する納得感①—キャリア選択の熟考を測定する試み—」(大谷哲弘・山本奨, 日本教育心理学会第61回総会発表論文集)	2019.9
	研究発表等 (共同)	「就職を希望する普通科高校生のキャリア選択に対する納得感②—納得感の構成と規定因—」(山本奨・大谷哲弘, 日本教育心理学会第61回総会発表論文集)	2019.9
大野 威	論文(単著)	「女性役員登用の国際比較および女性役員と企業業績・株価の関係: 女性役員比率30%以上の日本企業の株価と ROE の分析」(『立命館産業社会論集』55巻4号)	2020.3
岡田 桂	著書(分担執筆)	『クィアと法: 「セクシュアリティ化されるマスキュリティ: フィジカル・カルチャー雑誌における男性身体表象の変遷とホモソーシャル連続体」』(綾部六郎・池田弘乃編著, 日本評論社) 179-203頁	2019.6
	著書(分担執筆)	『スポーツの「あたりまえ」を疑え!: スポーツへの多面的アプローチ』(範囲: 男女平等なスポーツは実現可能か: 男性文化としてのスポーツとジェンダー, 晃洋書房)	2019.10
	論文(単著)	「“不完全に” クィア: 性的少数者をめぐるアイデンティティ/文化の政治と LGBT の「生産性」言説がもたらしたもの」(『年報カルチュラル・スタディーズ』7巻) 6-26頁	2019.7

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
岡田 桂	論文(単著)	「スポーツにおけるマスキュリティのグローバルな再配置:フィギュアスケート・人種・セクシュアリティのジェンダー表象」(『スポーツ社会学研究』27巻2号)29-48頁	2019.9
	論文(単著)	「“男らしさ”とスポーツの相関:ゆらぐ男性性/ジェンダー/セクシュアリティと身体の文化」(『体育の科学』70巻)53-58頁	2020.1
	書評(単著)	「小笠原弘毅著『真実を語れ、そのまったき複雑性において』」(図書新聞)	2019.10
岡田 まり	論文(単著)	「スーパービジョンとは何か:スーパービジョンの理論と実際」(『ケアマネジメント学』18号, ケアマネジメント学会)5-12頁	2019.11
	その他(共同)	「座談会 社会福祉士・精神保健福祉士養成課程の見直しとこれからのソーシャルワーカーに求められるものとは」(白澤政和・田村綾子・岡田まり・原田正樹, 『月刊福祉』102巻11号, 全国社会福祉協議会出版部)14-23頁	2019.11
	研究発表等(共同)	「スーパーバイザー養成プログラムの開発:4年間の成果」(岡田まり・片岡靖子・野村豊子・潮谷恵美, 日本ソーシャルワーク学会第36回大会, 於:淑徳大学)	2019.7
岡本 尚子	論文(共著)	「算数・数学科の図形や座標学習に関わる地図認識の特性—視線計測研究による分析を通して—」(岡本尚子・黒田恭史, 『数学教育学会誌』60巻3・4号)25-34頁	2020.3
	論文(共著)	「系列呈示された空間位置の情報の保持と処理に関わる脳活動の検討」(肥後克己・岡本尚子・苅阪満里子, 『立命館産業社会論集』55巻4号)65-76頁	2020.3
	研究発表等(単独)	“Mathematics Education Research Using a Physiological Approach: An Eye-Tracking Study” (Naoko Okamoto, MME seminar 2019 (Mathematics and Mathematics Education, National Institute of Education, Nanyang Technological University, Singapore))	2019.8
	研究発表等(共同)	「学習中の助言が学習者に与える影響」(岡本尚子・黒田恭史, 第37回日本生理心理学会大会)	2019.5
	研究発表等(共同)	「唾液指標を用いた妊娠期女性のストレス状態についての検討」(肥後克己・岡本尚子・孫怡・妹尾麻美・神崎真実・川本静香・中田友貴・矢藤優子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子, 第37回日本生理心理学会大会)	2019.5
	研究発表等(共同)	「立体図形課題遂行時における学習者の思考過程の分析—脳活動計測を通して—」(木下卓海・岡本尚子・黒田恭史, 数学教育学会夏季研究会(関西エリア))	2019.6
	研究発表等(共同)	“Characteristics of Brain Activity in Students Alternating Between Teaching And Learning Roles” (Yasufumi Kuroda, Naoko Okamoto, The 43rd Annual Meeting of the International Group for the Psychology of Mathematics Education)	2019.7
	研究発表等(共同)	“The validity of the Japanese guidance by the multi-lingual mathematics Video” (黒田恭史・岡本尚子, 8th International Conference on Computer Assisted Systems For Teaching & Learning Japanese)	2019.8
	研究発表等(共同)	「視線移動・脳活動の同時計測による立体図形課題遂行時の思考分析」(木下卓海・岡本尚子・黒田恭史, 第44回教育システム情報学会全国大会)	2019.9
	研究発表等(共同)	「YouTubeによる多言語対応算数・数学学習支援システム—持続可能性実現のための運営経費低減の試み—」(黒田恭史・岡本尚子, 第44回教育システム情報学会全国大会)	2019.9

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
岡本 尚子	研究発表等 (共同)	“How direct or indirect social interaction affects the brain activities during the drum playing?” (Hideo Eda, Tatsuro Sibuya, Miki Uchiyama, Tsutomu Tanaka, Madoka Yamazaki, Naoko Okamoto, Yasufumi Kuroda, Masayuki Satoh, Society for Neuroscience 2019)	2019.10
	研究発表等 (共同)	“Evaluation of the Japanese eye typing system with EEG” (Isao Motoyama, T. Uda, Madoka Yamazaki, Naoko Okamoto, Yasufumi Kuroda, Hideo Eda, Society for Neuroscience 2019)	2019.10
	研究発表等 (共同)	“Changes in prefrontal brain activity associated with order information memory” (Katsuki Higo, Naoko Okamoto, Mariko Osaka, Psychonomic Society's 60th Annual Meeting)	2019.11
	研究発表等 (共同)	“Do eye movements visualize the thinking process of the mental formation of geometric figures?” (Naoko Okamoto, Yasufumi Kuroda, The IAFOR International Conference on Education)	2020.1
	研究発表等 (共同)	「立方体の切断課題における学習者の視線移動及び脳活動の特徴」(青木駿介・岡本尚子・黒田恭史, 教育システム情報学会2019年度学生研究発表会)	2020.2
	研究発表等 (共同)	「使用媒体の異なる立体図形課題における学習者の解決方略の特徴—生体情報を用いた分析を通して—」(木下卓海・岡本尚子・黒田恭史, 数学教育学会2020年度春季年会)	2020.3
小澤 亘	論文(共著)	「外国にルーツを持つ児童の横書き・縦書きテキストにおける読み能力の違い—読み能力検査および視機能評価を通して—」(楠敬太・小澤亘・金森裕治著, 『立命館人間科学研究』No.40) 1-13頁	2019.12
御旅屋 達	著書(共編著)	『「若者/支援」を読み解くブックガイド』(阿比留久美・岡部茜・御旅屋達・原未来・南出吉祥編著, かもがわ出版)全197頁	2020.3
	研究発表等 (単独)	「社会的困難と発達障害・二次障害」(発達障害当事者会フォーラム in 仙台)	2019.9
角田 将士	論文(単著)	「近現代史と政治がわかる「この人物」お宝授業ネタ&エピソード 近現代史①:近代の日本(幕末~第一次世界大戦まで)「伊藤博文から立憲主義を学ぶ」」(『社会科教育』725号, 明治図書)28-29頁	2019.9
	論文(単著)	「『社会との関わり』を考える学習問題 よい例・悪い例(歴史)「歴史を通じて『私と国との関わり』について考える」」(『社会科教育』727巻, 明治図書)18-19頁	2019.11
	論文(単著)	「『民主政治の見方・考え方』の成長をめざす日本史単元開発—高等学校地理歴史科『歴史総合』単元『政党政治の挫折』—」(立命館大学教職教育推進機構編 『立命館教職教育研究』7号)1-11頁	2020.2
	研究発表等 (単独)	「『学ぶ意義』を意識した歴史(日本史)授業の実現に向けて」(社会科学習の評価改善研究会)	2019.5
	研究発表等 (単独)	「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科学習指導の課題」(社会科学習の評価改善研究会)	2019.7
	研究発表等 (単独)	「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科学習指導の課題(2)」(社会科学習の評価改善研究会)	2019.9
	研究発表等 (単独)	「社会系教科の授業づくりにおいて『本質的な問い』『逆向き設計』をどうとらえるか—高等学校日本史の単元開発を通して—」(日本教育方法学会第55回大会(ラウンドテーブル②))	2019.9

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
角田 将士	研究発表等 (単独)	「これからの社会系教科授業に求められるもの—『見方・考え方』の成長を意識した授業づくり—」(立命館大学実践教育学会第3回研究大会 (シンポジウム))	2019.10
	研究発表等 (単独)	「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科学習指導の多様性と課題」(社会科学習の評価改善研究会)	2019.11
	研究発表等 (単独)	「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科学習指導の多様性と課題(2)」(社会科学習の評価改善研究会)	2020.1
	研究発表等 (共同)	「『民主政治の見方・考え方』の成長をめざす日本史単元開発—高等学校地理歴史科『歴史総合』単元『政党政治の挫折』—」(角田将士・清水智貴, 社会系教科教育学会第31回研究発表大会 (自由研究発表))	2020.2
柏木 智子	著書(単著)	『子どもの貧困と「ケアする学校」づくり—カリキュラム・学習環境・地域との連携から考える』(明石書店)	2020.2
	著書(共著)	「子どもの貧困と教育支援」『教育社会学』(原清治・山内乾史編著, ミネルヴァ書房)64-79頁	2019.11
	著書(共編著)	『貧困・外国人世帯の子どもへの包括的支援—地域・学校・行政の挑戦』(柏木智子・武井哲郎編著, 晃洋書房)	2020.3
	論文(共著)	「学校経営の質的研究の展望」(水本徳明・畑中大路・白井智美・柏木智子, 『京都教育大学大学院連合教職実践研究科年報』8号)23-36頁	2019.6
	研究発表等 (単独)	「実践研究における質的アプローチ—意義と課題—」(日本教育経営学会第59回大会ラウンドテーブル)	2019.6
	研究発表等 (単独)	「学習社会における教育改革のゆくえ—「子どもの貧困」から考える教育展望—」(日本学習社会学会公開シンポジウム)	2019.9
	研究発表等 (単独)	「学校ガバナンスの課題と今後の展望—学校運営協議会等での熟議における公的機関の役割」(日本教育行政学会第54回大会課題研究I)	2019.10
	研究発表等 (単独)	「質的調査研究の魅力・限界、最低限のルール」(日本学校改善学会第2回大会 特別セッション)	2020.1
	研究発表等 (共同)	「教育長のリーダーシップに関する調査研究」(藤原文雄・露口健司・生田淳一・山下絢・澤里翼・諏訪英広・柏木智子, 日本教育経営学会第59回大会自由研究発表)	2019.6
	研究発表等 (共同)	「学習支援事業運営団体と学校との連携に関する研究」(柏木智子・大林正史・仲田康一, 日本教育行政学会第54回大会自由研究発表)	2019.10
加藤 潤三	論文(単著)	「地域コミュニティに対する住民の価値を測定する:『コミュニティ価値』尺度の作成と検討」(『立命館産業社会論集』55巻3号)55-66頁	2019.12
	論文(単著)	「地域における縦断的研究のすすめ:マイクロ-マクロ関係を踏まえた時系列的データの分析」(『コミュニティ心理学研究』23巻2号)78-86頁	2020.3
	研究発表等 (共同)	「地方回帰型移住における移住者の適応プロセスの検討:移住動機タイプ別による比較」(加藤潤三・前村奈央佳, 日本社会心理学会第60回大会)	2019.11
加藤 雅俊	論文(単著)	「『東アジア福祉国家論』から「東アジア発の福祉国家論」へ—福祉国家論の理論的刷新に向けて—」(『立命館産業社会論集』55巻1号)249-271頁	2019.6
	論文(単著)	「福祉国家論における財政と政治—オーストラリアを手がかりとして—」(日本比較政治学会研究大会報告ペーパー)1-19頁	2019.6
	論文(単著)	「説明に関わる諸問題と社会科学の目的 (著者:アンドリュウ・セイヤー)」(アンドリュウ・セイヤー 『社会科学の方法—実在論的アプローチ—』(ナカニシヤ出版, 監訳:佐藤春吉, 翻訳者:加藤雅俊)219-242頁 (第9章))	2019.9

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
加藤 雅俊	論文(単著)	“Social Problems and Welfare State Transformations in Japan: From the Point of Welfare State Theory” (『立命館大学人文科学研究所紀要』123号) 75-109頁	2020. 3
	論文(単著)	“On Theoretical Possibility of East Asian Welfare Regime : from the Point of Comparative Politics” (『立命館大学人文科学研究所紀要』123号) 119-144頁	2020. 3
	論文(単著)	「巻頭言(小特集)「グローバル化のなかの東アジア」研究会成果報告」(『立命館大学人文科学研究所紀要』123号) 1 - 3 頁	2020. 3
	論文(単著)	“Socio-Economic Transformations and the Changing Patterns of Political Order: from the Perspective of Welfare State Theory” (『横浜法学』28巻3号) 365-388頁	2020. 3
	論文(共著)	“The Political Effects of State Rescaling in Australia and Japan: A Comparative Analysis” (Masatoshi KATO and Kyoko TOKUHISA, Paper prepared for presentation at the 2019 Canadian Political Science Association Conference) pp.1-15	2019. 6
	研究発表等 (単独)	「福祉国家論における財政と政治—オーストラリアを手がかりとして—」(日本比較政治学会研究大会)	2019. 6
	研究発表等 (共同)	“The Political Effects of State Rescaling in Australia and Japan: A Comparative Analysis” (Kato Masatoshi and Tokuhiisa Kyoko, The 2019 Canadian Political Science Association Conference)	2019. 6
	研究発表等 (共同)	“The Japanese Welfare Model: From The Corporate Centered System to The Major Corporation Centered System” (SHIZUME Masato, KATO masatoshi, and MATSUDA Ryoza, the 16th Annual Conference of the East Asian Social Policy Research Network)	2019. 7
金澤 悠介	論文(単著)	「一般的信頼についての質問は何を測定しているのか? : 潜在クラス分析をもちいたアプローチ」(『社会学年報』48巻)95-113頁	2019. 8
	論文(単著)	「世代間社会移動と階層帰属意識からみた1955年の社会階層」(SSJ Data Archive Research Paper Series 『戦後日本の社会意識の変容過程についての計量社会学的研究』71巻) 1 -18頁	2019.10
	論文(共著)	“A new liberal class in Japan: based on latent class analysis” (Tsutomu Hashimoto, Yusuke Kanazawa and Kyoko Tominaga, Economic and Social Changes: Facts, Trends, Forecast, 12巻5号) pp.192-210	2019.10
	研究発表等 (単独)	「震災被災地における 社会的孤立の要因とその帰結: 「復興に関する大船渡市民の意識調査」の分析②」(第92回日本社会学会大会)	2019.10
金山 千広	著書(分担執筆)	『障害者スポーツ指導者: スポーツ白書2020 —2030年のスポーツのすがた—』(第5章「障害者スポーツ」, 笹川スポーツ財団)128-129頁	2020. 3
	論文(共著)	「インクルーシブ体育における指導体制と授業実践に対する教師の評価: A 県における小学校の通常学級担任および特別支援学級担任の意識をもとに」(萩原大河・金山千広・國土将平, 『アダプテッド・スポーツ科学』17巻1号, 日本アダプテッド体育・スポーツ学会) 3 -23頁	2019. 7
	論文(共著)	「パラ水泳の直接観戦と障がい者スポーツに対する意識変容との関連について: 国際大会派遣レースに参加する10代の選手を対象に」(瀬川海・奥田鉄人・金山千広, 『障がい者スポーツ学会学会誌』28号, 日本障がい者スポーツ学会)26-32頁	2019.12

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
金山 千広	研究発表等 (単独)	"Service strategies of sport facilities for persons with disabilities in Japan" (Khorfakkan International Conference for Persons with Disability and Adapted Physical Education., Khorfakkan sport club: Sharjah - United Arab Emirates (UAE), 於:Sharjah - United Arab Emirates (UAE))	2019. 6
	研究発表等 (単独)	"「障害者が利用する公共スポーツ施設のサービス方略と組織特性: 障害者優先スポーツ施設と一般公共スポーツ施設の共通要因」(日本体育学会第70回大会, 於: 慶應大学)	2019. 9
	研究発表等 (共同)	"Variables Affecting Heat Stroke Among The Users Of Priority Sports Facilities For Disabled People In Japan" (Ryo TAKAUCHI, Shouzoh UEKI, Chihiro KANAYAMA, 22st International Symposium of Adapted Physical Activity, IFAPA, 於: CHARLOTTESVILLE, VA, USA)	2019. 6
	研究発表等 (共同)	「小学校のインクルーシブ体育における授業の類型に関する検討」(萩原大河・金山千広, 日本体育学会第70回大会, 於: 慶應大学)	2019. 9
	研究発表等 (共同)	「障害者アスリートが求める指導者像に関する研究: 特に車いすソフトボールを中心に」(岩元三栗・金山千広, 日本アダプテッド体育・スポーツ学会第24回大会, 於: 大阪体育大学)	2019.12
	その他(単著)	『パラリンピックの「指標」』(共同通信社)	2019. 9
金子 史弥	研究発表等 (単独)	「英国におけるスポーツ組織のガバナンス改革とその「受容」——中央競技団体による取り組みに着目して」(日本スポーツ体育健康科学学術連合第3回大会シンポジウム2「民間スポーツ組織の主体的ガバナンスを考える——日独英の比較から」)	2019. 9
	研究発表等 (単独)	「2020年東京オリンピック・パラリンピックのレガシー～ロンドンに学ぶ、東京が未来に遺せるもの～」(立命館大学プレスセミナー)	2020. 2
権 学俊	論文(単著)	「国民体育大会を考える」(月刊『自治研』)30-38頁	2019.10
	研究発表等 (単独)	「虚構のスポーツイベント・国民体育大会を考える—国体開催が開催地域に及ぼす影響と問題点」(県民フォーラム2019)	2019. 8
	研究発表等 (単独)	「日本におけるダークツーリズムと地域活性化」(教育部・韓国学術財団主催韓日中「国際学術シンポジウム」)	2019.10
	研究発表等 (単独)	「戦後日本保守政治家の歴史認識と日韓関係」(世明大学人文社会学講座・特別講演)	2019.10
	研究発表等 (単独)	「日韓両国における朝鮮人特攻隊員に関する認識と受容」(第22回社会文化学会全国大会)	2019.12
黒田 学	著書(編著)	『若き医師たちのベトナム戦争とその後—戦後の礎を築いた人たち』(黒田学編著・監訳, クリエイツかもがわ) 6-9頁, 12-30頁, 126-128頁	2019. 6
	著書(共編著)	『新版 キーワードブック 特別支援教育』(玉村公二彦・黒田学・向井啓二・平沼博将・清水貞夫編著, クリエイツかもがわ)26-27頁, 29頁, 98-99頁, 156-157頁, 220-223頁, 240-245頁	2019. 4
	論文(共著)	「ベトナムの施設調査における障害児支援の現状と課題」(武分祥子・菱田博之・川手弓枝・黒田学著, 『飯田女子短期大学紀要』36巻)67-89頁	2019. 5
	論文(共著)	「ベトナムにおける障害者の職業訓練と雇用をめぐる動向—ハノイ, ホーチミン市の障害者施設等の現地調査を通じて—」(黒田学・野村実・伊井勇著, 『立命館産業社会論集』55巻3号)93-105頁	2019.12

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
小泉 秀昭	論文(単著)	「序説—ホワイトヘッド「有機体の哲学」の広告論への応用」(『立命館産業社会論集』55巻2号)71-90頁	2019.9
	研究発表等 (単独)	「「有機体的広告論」序説～ホワイトヘッド「有機体の哲学」の広告論への応用～」(日本広告学会第50回全国大会)	2019.11
斎藤 真緒	論文(単著)	「「子ども・若者ケアラー」支援のための予備的考察—<ケアラー>支援と<子ども・若者>支援との接合—」(『立命館産業社会論集』55巻2号)35-50頁	2019.9
	研究発表 (単独)	“Male Carers and Gender Specific Support in Japan” (Caring for Elderly and Dependent People: Promoting Gender Equality and Social Justice, in Tarragona, Universitat Rovira I Virgili)	2019.9
坂田 謙司	論文(単著)	「地域の人びとの欲求がメディアを作る —ローカルな音声メディア史からみる「声」の存在」(『地域づくり』2019巻12月号)2-5頁	2019.12
坂本 利子	論文(共著)	“Fostering active peer-learning between diverse student groups in Japanese universities: How interactions can be enhanced and benefit students in intercultural learning?” (T. Sakamoto・A. Honda・P. Kanduboda, INTED: International Technology, Education and Development 2020 Proceedings) 3499-3506頁	2020.3
	研究発表等 (共同)	“FOSTERING ACTIVE PEER-LEARNING BETWEEN DIVERSE STUDENT GROUPS IN JAPANESE UNIVERSITIES: HOW INTERACTIONS CAN BE ENHANCED AND BENEFIT STUDENTS IN INTERCULTURAL LEARNING?” (T. Sakamoto・A. Honda・P. Kanduboda, virtual participation in the INTED 2020: the 14th International Technology, Education and Development Conference, Valencia, Spain)	2020.3
崎山 治男	論文(単著)	「感情労働のやりくり：自己実現への煽りとライフコースにある感情労働」(財団法人たばこ総合研究センター編『TASC MONTHLY』528巻)6-13頁	2019.12
	書評(単著)	「山田陽子著『働くための人の感情資本論』(『図書新聞』3438号)4頁	2020.3
桜井 啓太	著書(分担執筆)	『子どもの貧困／不利／困難を考えるⅢ—施策に向けた総合的アプローチ』(埋橋孝文他編, ミネルヴァ書房)73-85頁 (第4章「親の貧困と所得保障」)	2019.6
	著書(分担執筆)	『貧困と就労自立支援再考—経済給付とサービス給付』(埋橋孝文・同志社大学社会福祉教育研究支援センター編, 法律文化社)46-75頁 (第3章「就労自立支援サービスの現在—生活困窮者・生活保護の視点から」)	2019.10
	論文(単著)	「福祉事務所の人員体制をめぐる近年の状況 (特集「生活保障法」制定をめざして)」(『賃金と社会保障』1745・1746合併号, 旬報社)17-28頁	2020.1
	論文(単著)	「生活保護における「三つの自立論」の批判的検討」(『社会政策』11巻3号, 社会政策学会編)91-101頁	2020.3
	その他(単著)	「“子育て罰”を受ける国、日本のひとり親と貧困」(『SYNODOS』2019年6月10日号)	2019.6
櫻井 純理	論文(単著)	「就労支援政策の意義と課題—半「就労」の質をどう担保するのか?」(『社会政策』11巻1号)26-39頁	2019.6
	論文(単著)	「日本における中間的就労機会の広がり—社会的包摂にどう結びつけるのか?」(『日本労働研究雑誌』713号)67-76頁	2019.12

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
笹野恵理子	著書(分担執筆)	『新版中学校・高等学校教員養成課程 音楽科教育法』(齊藤忠彦・菅裕編著、教育芸術社)56-61頁	2019.11
	著書(分担執筆)	初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等音楽科教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』(「音楽科の内容(共通事項)」, 音楽之友社)23-26頁	2020.3
	著書(分担執筆)	中等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 中等音楽科教育法 2017/18年告示「中学校・高等学校学習指導要領」準拠』(「学習指導計画」, 音楽之友社)24-36頁	2020.3
	研究発表等(単独)	「学校音楽のキュラム経験—学校音楽はどう経験されるか」(日本音楽表現学会第17回大会, 於:愛知教育大学)	2019.6
	研究発表等(単独)	「学校音楽を「学ぶ」と「教える」ことの諸相(6)—教師の学校音楽キュラム経験—」(日本音楽教育学会第50回大会, 於:東京藝術大学)	2019.10
佐藤 詩恵	論文(単著)	“A Corpus-Based Analysis of “so” in Written Discourse: A Comparison Between L1 English Speakers and Japanese EFL Learners” (Applied Pragmatics, John Benjamins, 1巻1号) pp.26-45	2019.5
	研究発表等(単独)	“Grammatical uses of “so” in EFL writings: Functional variability among learners in China, Japan, Korea, and Taiwan” (Sixth International Conference on Language, Literature & Society 2019, Kuala Lumpur, Malaysia)	2019.6
鎮目 真人	研究発表等(共同)	“The Japanese Welfare Model: From the Corporate Centered System to the Major Corporation Centered System” (Masato Shizume, Masatoshi Kato, and Ryoza Matsuda, The 16th Annual Conference of East Asian Social Policy Research Network East Asian Welfare Futures: between Productivism and Social Investment)	2019.7
下條 正純	論文(単著)	「ライトノベルの発話表現とキャラクターに係る日本語を母語としない消費者の理解」(『立命館産業社会論集』55巻2号, 立命館大学産業社会学会)107-114頁	2019.9
杉浦 愛	訳書(共著)	『サーフィン・スケートボード・パルクール: ライフスタイルスポーツの文化と政治』(ベリンダ・ウィートン著, 市井吉興・松島剛史・杉浦愛監修, ナカニシヤ出版)153-187頁	2019.4
杉本通百則	論文(その他)	「アンドリュー・セイヤー著「第2章 理論、観察、実践的適合性」(杉本通百則訳, 佐藤春吉監訳『社会科学の方法—実在論的アプローチ—, ナカニシヤ出版)46-82頁	2019.9
	研究発表等(単独)	「ドイツの科学技術・産業政策における産学公連携の特質—it's OWLを中心に—」(日本科学史学会第66回年会)	2019.5
住家 正芳	論文(単著)	「青年大平正芳と佐藤定吉の「キリスト教」」(『立命館産業社会論集』55巻3号)39-53頁	2019.12
住田 翔子	論文(単著)	「都市へのノスタルジア—一九八〇年代以降の日本における廃墟写真をめぐって」(『風景の人間学: 自然と都市, そして記憶の表象』)275-295頁	2020.3
高橋 顕也	論文(単著)	“Mita's Four Ideal Types of Time Revisited: Axiomatization of Sociological Concepts of Time (I)” (『立命館産業社会論集』55巻3号)67-76頁	2020.2

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
高橋 顕也	研究発表等 (単独)	「真木「時間の4類型」・再考 —社会学的時間概念の公理論化(1)—」(第70回関西社会学会大会)	2019.6
竹内 謙彰	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発(15)—小学校低学年:参加児の仲間意識を高めるためのスタッフのかかわり方と遊びの工夫—」(鈴木ひかり・藤田佳恵・坂口達也・寺岡芽美・松元佑・荒木美知子・荒木穂積・竹内謙彰, 日本自閉症スペクトラム学会第18回研究大会)	2019.9
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発(16)—小学校:仲間意識を高めるための「役割」を重視したプログラム作成の工夫—」(上仲晴菜・朝倉みずき・井出悠香子・植木雪音・井篠和之・松元佑・荒木穂積・竹内謙彰, 日本自閉症スペクトラム学会第18回研究大会)	2019.9
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発(17)—中学生・高校生:参加児の自主性を重視した創作活動の工夫—」(饗庭桃子・浮田千紗子・内田信之介・佐藤友紀・徐曼・竹内謙彰・荒木穂積・松元佑, 日本自閉症スペクトラム学会第18回研究大会)	2019.9
	研究発表等 (共同)	「学童期における自己の構成の発達:20答法を用いた分析」(富井奈菜実・松島明日香・竹内謙彰・荒木穂積・中村隆一, 対人援助学会第11回大会)	2019.11
武岡 暢	著書(共編著)	『変容する都市のゆくえ——複眼の都市論』(三浦倫平・武岡暢編著, 文遊社)	2020.3
	著書(分担執筆)	“Sex Work” in The Routledge Companion to Gender and Japanese Culture (Jennifer Coates, Lucy Fraser, and Mark Pendleton eds) (Routledge) pp.179-188	2020.1
	著書(分担執筆)	「歌舞伎町を歩くとはどのようなことか——歓楽街における看板の経験をめぐって」(『変容する都市のゆくえ』, 文遊社)155-190頁	2020.3
武田 淳	研究発表等 (単独)	“Japanese students in South Korea: Connections between media consumption and international education” (The 5th International Conference on Linguistics, Literature and Culture, Penang, Malaysia)	2019.7
竹濱 朝美	著書(共著)	『入門 再生可能エネルギーと電力システム、再エネ大量導入時代の次世代ネットワーク』(諸富徹・小川祐貴・東愛子・中山琢夫・杉本康太・安田陽・内藤克彦・近藤潤次・竹濱朝美・歌川学著, 日本評論社)221-245頁	2019.5
	論文(共著)	「西日本における2030年、再生可能エネルギー電力比率45%に向けた課題、地域間送電とデマンドレスポンスの活用」(竹濱朝美・歌川学著, 電気学会研究会資料)35-40頁	2019.5
	論文(共著)	「2030年の西日本における電力需給分析:デマンドレスポンスおよび地域連系線活用、再エネ電源比率大幅拡大の検証」(竹濱朝美・歌川学著, 『第38回エネルギー・資源学会, 研究発表会講演論文集』CD版, 38巻)22_1頁	2019.8
田村 和宏	論文(共著)	「重症心身障害児(者)の地域生活支援から見た権利保障の課題」(『障害者問題研究』47巻20号)18-25頁	2019.8
	論文(共著)	「障がいのある子どもと学童保育の生活づくり」(『学童保育研究』20号)	2019.10
丹波 史紀	著書(共編著)	『ふくしま原子力災害からの複線型復興——人ひとりの生活再建と「尊厳」の回復に向けて—』(丹波史紀/清水晶紀編著, ミネルヴァ書房)1-19頁, 63-85頁, 115-156頁	2019.6

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
丹波 史紀	論文(共著)	「東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態—2017年第2回双葉郡住民実態調査—」(丹波史紀・佐藤慶一・サトウタツヤ・清水晶紀・関谷直也・廣井悠・除本理史・安本真也著、『東京大学大学院情報学環紀要』情報学研究・調査研究編, No. 36号) 1-65頁	2020.3
筒井 淳也	著書(単著)	『筒井淳也「夫婦間の情緒的関係」西野理子・米村千代編『よくわかる家族社会学』(ミネルヴァ書房)84-91頁	2019.12
	著書(単著)	“Work and Family in Japanese Society”(Junya TSUTSUI, Springer)	2019
	著書(単著)	『ジェンダーと家族「結婚」「子どもと家族」田間泰子編『リスク社会と家族変動』(放送大学教育振興会)95-110頁, 111-125頁, 157-172頁	2020.3
	著書(分担執筆)	「出産：子どもを持つことについての格差」(小林盾・川端健嗣編『変貌する恋愛と結婚：データで読む平成』新曜社)181-198頁	2019.4
	論文(単著)	「共働き社会化がもたらす夫婦間の分配の変化：家族社会学の視点から」(『家族<社会と法>』35巻) 3-13頁	2019.11
	論文(単著)	「書評：脇坂明『女性労働に関する基礎的研究：女性の働き方が示す日本企業の現状と将来』(『個人金融』13巻4号)148-149頁	2019
	論文(単著)	「計量社会学と因果推論」(『理論と方法』34巻1号)35-46頁	2019
	研究発表等(単独)	「文系縮小圧力のなかでの社会学の立ち位置：科学との類似性と異質性のあいだで」(第70回 関西社会学会)	2019.6
	研究発表等(単独)	“An Analysis of Mate Selection in Asian Countries using the CAFS Data”(International Sociological Association RC06 / Vietnam Sociological Association International Conference)	2019.10
その他(単独)	講演「2040年の暮らしを見据えた社会保障・働き方についての勉強会」(於：厚生労働省, 2019年9月19日)	2019.9	
津止 正敏	著書(共著)	「長寿社会を生きる—健康で文化的な介護保障へ—」(石田一紀・池上淳・津止正敏・藤本文郎, 新日本出版社)177-200頁	2019.4
	論文(単著)	「高齢者を介護する家族への支援の現状と課題」(『月刊福祉』第102巻第6号, 全国社会福祉協議会出版部)44-47頁	2019.6
	論文(単著)	「家族介護者の変容と介護問題研究の課題」(『日本看護福祉学会誌』, Vol.25巻No.1号, 日本看護福祉学会)34-41頁	2019.10
	論文(単著)	「男性介護者のネットワーク」(『社会と調査』24号, 社会調査協会)97頁	2020.3
	研究発表等(単独)	「仕事と介護を両立するということ」(第32回日本看護福祉学会(市民公開講座), 於：福岡大学)	2019.7
	研究発表等(単独)	「大介護時代の地域福祉—民生委員の歩みに学ぶ—」(京都市民生委員・児童委員及び主任児童委員委嘱状伝達式, 於：京都会館)	2019.12
	研究発表等(単独)	「日本の家族介護者支援の現状と課題」(2019年度日韓交流・啓発セミナー「日本と韓国認知症介護で拓く未来」, 於：損保ジャパン本社ビル)	2019.12
富永 京子	著書(単著)	『みんなの「わがまま」入門』(左右社)	2019.4
	著書(分担執筆)	『共生社会の再構築Ⅱ デモクラシーと境界線の最定位』(大賀哲・仁平典宏・山本圭編著, 法律文化社)122-139頁	2019.4
	著書(分担執筆)	『フィールドから読み解く観光文化学』(西川克之・岡本亮輔・奈良雅史編著, ミネルヴァ書房)283-298頁	2019.4
	論文(単著)	「メタゲームとしての雑誌投稿——デジタルゲーム雑誌『週刊ファミ通』投稿コーナーを事例として——」(『ソシオロギス』43巻)37-51頁	2019.11

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
富永 京子	論文(単著)	「社会運動する若者」はどのように存在しうるのか? —消費社会に「対抗」し、「やり過ぎ」し、「利用する」主体の運動—」(『社会文化研究』22巻, 社会文化学会)29-42頁	2020. 3
	論文(共著)	“2 A New Liberal Class in Japan: Based on Latent Class Analysis” (Tutomu Hashimoto, Yusuke Kanazawa and Kyoko Tominaga, Economic and Social Changes: Facts, Trends, Forecast, 12巻 5号) pp.192-210	2019. 9
	研究発表等 (単独)	“Activists Seeking Authenticity in Social Movements: The Study of Activist Identity and Lifestyle Movement in Japan” (EVF Discussion Workshop: Youth, Activism and Politics in Japan Today)	2019. 5
	研究発表等 (単独)	「社会運動らしさ」を作り出す社会運動」(第21回社会政治研究会)	2019. 5
	研究発表等 (単独)	「社会運動研究とNPO 研究の差異を考える——社会運動論から考える参加と組織化 (2)」(第21回日本NPO学会大会)	2019. 6
	研究発表等 (単独)	「欧州・東アジアの社会運動と社会運動論の現代的課題」(APL セミナー)	2019. 6
	研究発表等 (単独)	“The Study of Activist Identity and Protest Tourism” (Social Movements after the Global Crash: Looking Back, Looking Forward)	2019. 6
	研究発表等 (単独)	“Wagamama (selfishness): Barriers to Participation in Social Movement in Japan” (University of Vienna Public Seminar)	2019.10
	研究発表等 (単独)	“Collective action by unradicalized youth: Practices of constructing and sharing the activist identity” (Public Lecture in Friedlich-Alexander Universität Erlangen-Nürnberg)	2020. 1
	その他(単著)	「富永京子のモジモジ系時評」(『朝日新聞』東京本社版, 2019年4月6日から毎月第1土曜日夕刊に連載)	2019. 4
仲井 邦佳	論文(単著)	「スペイン語推断文—等位文としてのカテゴリー確立に向けて—」(『立命館産業社会論集』55巻1号)45-62頁	2019. 6
	その他(単著)	スペイン語講座 (37)関係詞の用法について (2) (『Acueducto』第37号)32頁	2019. 4
	その他(単著)	スペイン語講座 (38)接続法の用法について (1) (『Acueducto』第38号)32頁	2019. 7
	その他(単著)	スペイン語講座 (39)接続法の用法について (2) (『Acueducto』第39号)28頁	2019.10
	その他(単著)	スペイン語講座 (40)接続法の用法について (3) (Acueducto』第40号)26頁	2020. 1
	その他 (単独講演)	「大学の単位制度と学年暦—単位の実質化と諸問題」(日本私立大学連盟教学担当理事者会議 『学修時間確保の現状と課題』)	2019. 8
中井 美樹	論文(単著)	“Changes in Couples' Bread-Winning Patterns and Wife's Economic Role in Japan from 1985 to 2015” (Statistical Learning of Complex Data) pp.133-141	2019
	論文(共著)	“A latent class analysis towards stability and changes in breadwinning patterns among coupled households” (Fulvia Pennoni and Miki Nakai, Dependence Modeling, 7巻 1号) pp.234-246	2019. 8
	論文(共著)	“Weighted Optimization with Thresholding for Complete-Case Analysis” (Vernizzi, Graziano and Nakai, Miki, Statistical Learning of Complex Data) pp.143-151	2019
	研究発表等 (共同)	“Assessment of recent social attitudes in Japan: a latent class item response theory model for web survey data” (Fulvia Pennoni and Miki Nakai, IFCS2019)	2019. 8

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
長澤 克重	論文(単著)	「学習者支援の自己評価 — R2030に向けたピア・サポートと全学協議会—」(『立命館高等教育研究』20号)49-57頁	2020.3
	研究発表等 (共同)	「商業統計に関する現代的課題:小売業態、商業集積、オンライン化」(荒川貴典・長澤克重・池田伸, 経済統計学会第63回全国研究大会)	2019.9
永島 昂	論文(単著)	「高度成長期の鋳物産業(中)」(『立命館産業社会論集』55巻4号)41-64頁	2020.3
	調査報告書 (共著)	「『調査報告』DMG MORI の産業 IoT の展開」1-23頁	2019.10
	研究発表等 (単独)	「DMG MORI SEIKI AGにおけるインダストリー40の取り組み」(日本科学史学会第66回年会, 岐阜大学)	2019.5
中西 純司	論文(共著)	「柔道の「動き」のスポーツ化と柔道実践者の実態:「柔の理」への認識に焦点をあてて」(有山篤利・中西純司・島本好平・金野潤著, 『体育学研究』64巻1号)101-117頁	2019.6
	研究発表等 (共同)	「地域スポーツ推進をめぐる「地域資源」の構造的矛盾:生涯スポーツ政策の歴史の変遷から」(行實鉄平・中西純司, 日本体育学会第70回大会, 於:慶應義塾大学 日吉キャンパス)	2019.9
中西 典子	論文(単著)	「ローカリズム政策にみる地域の公共性の所在」(地域政策研究会報告書, 『地域政策と分権型ガバナンス』)28-42頁	2019.4
	その他(単独)	「富山県八尾市および南砺市における伝統産業と文化によるまちおこしの現地調査」	2019.8
中西 仁	論文(単著)	「教師の問題解決学習としての授業改善—中学校の社会科教師として—」(『考える子ども』392巻)29-33頁	2019.5
	論文(単著)	「『福岡駅』実践を読み解く—社会科実践記録の史料批判的研究の試み—」(『立命館産業社会論集』55巻2号)91-106頁	2019.9
	研究発表等 (単独)	「神輿場はなぜ荒れたのか その2—「劇場型」神輿荒れ」(第38回京都民俗学会年次研究大会)	2019.12
永野 聡	論文(共著)	「内発的動機に基づいた社会的紐帯の形成に寄与する外部関係者の介入のあり方と役割に関する実証的研究—越後妻有アートトリエンナーレへの作品出展を介した10年間の活動成果を振り返り—」(永野聡・山近資成・高嶺翔太, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』)	2019.9
	研究発表等 (共同)	「内発的動機に基づいた社会的紐帯の形成に寄与する外部関係者の介入のあり方と役割に関する実証的研究 —越後妻有アートトリエンナーレへの作品出展を介した10年間の活動成果を振り返り—」(永野聡・山近資成・高嶺翔太, (一社)日本建築学会大会学術講演会)	2019.9
	研究発表等 (共同)	「人文社会学系ゼミ活動によるクラウドファンディングの活用に関する研究」(永野聡・佃成輔・増田大河, 日本ソーシャルイノベーション学会)	2019.12
永橋 為介	著書(共著)	「京都市右京区地域力推進事業「まち価値・魅力向上大作戦事業報告書」」(京都市右京区役所)	2020.3
	著書(共著)	「京都市右京区地域力推進事業「地域主体の賑わいづくりプロジェクト(清滝)事業報告書」」(京都市右京区役所)	2020.3
	書評(単著)	「中庭光彦『コミュニティ3.0 地域バージョンアップの論理』」(『コミュニティ政策』17巻)168-171頁	2019.7

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
仲間 裕子	著書(共著)	『芸術愛好家たちの夢—ドイツ近代におけるディレクタンティズム』(佐藤直樹編著, ウルリヒ・フィステラー・船岡美穂子・ヤナ・ビーバ他著, 三元社)303-336頁	2019.9
	著書(共編著)	『風景の人類学—自然と都市, そして記憶の表象』(竹中悠美・仲間裕子編著, 三元社)320頁	2020.3
	論文(単著)	「フーゴ・フォン・チューディのモダニズムと日本」(『立命館言語文化研究』31巻4号, 立命館大学国際言語文化研究所)107-117頁	2020.3
	研究発表等(単独)	「フーゴ・フォン・チューディのモダニズムと日本」(国際シンポジウム「ドイツ・モダニズムの黎明期とベルリン」, 於:立命館大学)	2019.5
	研究発表等(単独)	“The aesthetics of landscape in contemporary and traditional vision” Freie Universität Berlin-Kobe University-Ritsumeikan University Joint Workshop on ‘Landscape and New Media in Art, Film and Theatre’, 於:立命館大学)	2019.6
	研究発表等(単独)	“Nature and humans: Physical reality in Japanese aesthetics of Hokusai and teamLab” (Jikihitsu The Signature of the Artists, Japanese Tradition in Contemporary Polish Art (the celebration of the centenary of establishing diplomatic relations between Poland and Japan), 於: Collegium of Art Education, The Maria Grzegorzewska University)	2019.6
	研究発表等(単独)	“The Cultural Comparison of the Landscape Images through the Traveler’s View” Hasekura League Symposium: Images, Philosophy, Communication, 於: ポローニャ大学)	2019.11
	研究発表等(単独)	「カスパー・ダーヴィト・フリードリヒのメランコリー—思想・文化的文脈から」(美学会シンポジウム, 於:美学会シンポジウム)	2020.1
その他 (同会パネリスト等)	“Japanese aesthetics in the phenomenological view of the fog landscape” (The 21st International Congress of Aesthetics 2019 Belgrade, 於:ベオグラード大学)	2019.7	
中村 正	著書(分担執筆)	『社会病理学の足跡と再構成』(日本社会病理学会監修・朝田佳尚・田中智仁編, 学文社)139-167頁	2019.10
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (25) 情状を問うことの意味—ナラティブと動機の語彙—」(『対人援助学マガジン』10巻1号, 対人援助学会)21-29頁	2019.6
	論文(単著)	「性暴力加害者をなくすための「教育」からみた支援」(『日本性科学会雑誌』37巻1号)13-23頁	2019.7
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (26) 認知的不正義—加害者更生のために—」(『対人援助学マガジン』10巻2号, 対人援助学会)22-33頁	2019.9
	論文(単著)	「ハラスメント加害者の更生はいかにして可能か—加害者への臨床心理社会的な実践をもとにして考える—」(『日本労働研究雑誌』712号, 労働政策研究・研修機構)86-97頁	2019.11
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (27) 家族問題と治療的司法」(『対人援助学マガジン』10巻3号, 対人援助学会)20-27頁	2019.12
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (28) 男性同士の関係性—男どうしの親密さと脱暴力—」(『対人援助学マガジン』10巻4号, 対人援助学会)21-29頁	2020.3
	研究発表等(単独)	“On the Necessity for Combining Therapeutic Justice with Clinical Family Social Work Regarding of Child Abuse and Domestic Violence” (The XXXVIth International Congress on Law and Mental Health)	2019.7

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
中村 正	研究発表等 (単独)	「社会病理学者の職業倫理」(第35回日本社会病理学会)	2019.9
	研究発表等 (共同)	「男性性の傷つきに敏感なジェンダー臨床論のために (第8回・最終回)―「男らしさ」へのエクソダス (脱出)」(中村正・國友万裕, 第11回対人援助学会)	2019.11
浪田 陽子	論文(共著)	“The President versus the Press: Analyzing President Trump's Fake News Awards” (de Soete, Francois & Namita, Yoko, 『立命館産業社会論集』55巻1号)303-317頁	2019.6
	論文(共著)	“Real Fake News versus Fake Real News in the Trump Era: Analyzing the effects of erroneous news reports on public confidence in the press” (de Soete, Francois & Namita, Yoko, 『立命館産業社会論集』55巻3号)77-92頁	2019.12
	研究発表等 (単独)	「カナダのネットいじめとその対策」(カナダ教育学会第54回研究会)	2019.12
根津 朝彦	研究発表等 (単独)	“Tokyo Journalism History and the Emperor System” (UBC Department of Asian Studies and the Centre for Japanese Research Workshop: Rethinking the Cultural Cartographies of Tokyo in Japanese Media)	2020.1
	その他(単著)	「戦後ジャーナリズムの思想をたどる―厳しい時こそ歴史の豊かな普遍性からヒントを」(『新聞研究』2019年8・9月号)	2019.8
	その他(単著)	「書評 篠田博之『皇室タブー』」(共同通信, 2019年9月19日配信)	2019.9
	その他(単著)	「本の背景 ジャーナリズム文化を探る『戦後日本ジャーナリズムの思想』」(『調査情報』550号, TBS メディア総合研究所)	2019.9
	その他(単著)	「『戦後京都学派』の知的コーディネーター、桑原武夫の人文知とその魅力」(『図録 桑原武夫の世界―「没後30年 桑原武夫展」の記録』, 京都大学人文科学研究所)	2020.3
	その他 (単独講演)	人文研アカデミー2019連続セミナー「人文研90年「みやこの学術資源」の継承と発信」で「桑原武夫の世界とその人文知」を講演 (京都大学人文科学研究所, 2019年10月15日)	2019.10
	その他 (単独講演)	日本カナダ商工会議所で「日本の大学教育とジャーナリズム研究の経験から」を講演 (International House Vancouver, 2019年11月22日)	2019.11
	その他(共著)	著者インタビュー「皇室タブー 今も続く自主規制」(『朝日新聞』2019年5月22日付夕刊)	2019.5
	その他(共著)	著者インタビュー「報道のあり方とは 思想追う」(『読売新聞』2019年5月30日付夕刊 (大阪本社版))	2019.5
	その他(共著)	著者インタビュー「メディア不信の先に希望」(『京都新聞』2019年6月5日付)	2019.6
その他(共著)	著者インタビュー「報道と言論の戦後史」(共同通信, 2019年6月5日配信)	2019.6	
盧 載玉	論文(単著)	「朝鮮王朝時代の絵画「チェッコリ」についての一考察」(『立命館産業社会論集』第55巻第1号)	2019.6
野原 博人	論文(単著)	「理科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価―「主体的に学習に取り組む評価」を具体化する理科授業デザインの視点―」(『理科の教育』69巻)21-24頁	2020.2

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
野原 博人	研究発表等 (共同)	「理科授業をデザインする理論に関する考察—拡張的学習による理科授業デザインを促進する要因—」(日本理科教育学会第69回全国大会)	2019.9
	研究発表等 (共同)	「科学概念構築をめざした理科授業デザインの理論—拡張的学習による理科授業デザイン—」(令和元年度日本理科教育学会近畿支部大会)	2019.11
原尻 秀樹	著書(単著)	『多文化共生の思想とその実践：日本の伝統文化から考える』(新幹社)全51頁	2019.10
	論文(単著)	“Study on Korean Chinese: From the Perspectives of Comparative Research on Redeveloping Communities of Koreans in China and in Japan” (Asia-Japan Research Academic Bulletin Vol. 1, 2019-20, Asia Japan Research Institute of Ritsumeikan University) pp.1-14	2019.11
樋口 耕一	論文(単著)	「計量テキスト分析における対応分析の活用——同時布置の仕組みと読み取り方を中心に (特集：教育研究における統計的手法の有効活用)」(『コンピュータ & エデュケーション』47巻)	2019.12
	研究発表等 (単独)	「統計分析は言葉の意味にどこまで迫れるのか—自由記述やインタビューの計量テキスト分析に向けて」(第23回日本看護管理学会学術集会)	2019.8
	研究発表等 (単独)	「自由記述から見る, だれがなぜ改憲に賛成・反対しているのか—政治・社会意識と情報行動に関する共同実証研究(3)—」(第92回日本社会学会大会)	2019.10
	その他(単著)	「社会学におけるテキスト分析」[計量テキスト分析のための自由ソフトウェア KH Coder](『文化情報学事典』, 村上征勝監修, 勉誠出版)76-81頁, 791-795頁)	2019.12
日暮 雅夫	著書(共訳)	『理性の病理——批判理論の歴史と現在』(アクセル・ホネット著, 出口剛司・宮本真也・日暮雅夫・片山平次郎・長澤麻子訳, 法政大学出版局) 5-28頁, 68-82頁, 253-270頁	2019.5
	著書(共著)	『学生と市民のために社会文化研究ハンドブック』(社会文化学会編「アメリカの市民運動の現在」見洋書房)110-111頁	2020.1
	論文(単著)	「社会主義の理念の今日的再構成——ホネット『社会主義の理念』の分析、(同特集「アクセル・ホネットと現代社会理論」特集リード)」(季報『唯物論研究』150号)40-47頁, 15-17頁	2020.2
日高 勝之	著書(共著)	“Collective Remorse for the Past” (書籍 Persistently Postwar: Media and the Politics of Memory in Japan 所収) (Blai Guarné, Artur Lozano, Dolores Martinez, Berghahn Books) pp.122-142	2019.4
	論文(単著)	“In the Wake of Catastrophe: Japanese Media after the Fukushima Nuclear Disaster” (Research Outreach, 109巻) pp.54-60	2019.8
	研究発表等 (単独)	“Negotiating Bizarreness and (De) Politics: February 26 Incident and Abe Sada on Films” (International Symposium ‘Directions in Japanese Film Studies)	2019.5
	研究発表等 (単独)	「都市とコミュニケーション～ヘリテージと社会的想像から考える～」(日本コミュニケーション学会第49回年次大会)	2019.6
	研究発表等 (単独)	「[「反原発」の言説史を考える～フクシマ以前/以降～」(日本マスコミュニケーション学会春季全国大会)	2019.6
福岡 良明	研究発表等 (単独)	「[「特攻の町・知覧」の戦後史——「他者の記憶」の逆輸入と「無難さ」の政治学」(同志社社会学研究学会, 2019/07/27)	2019.7

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
福間 良明	研究発表等 (単独)	“The Arguments on War Experience in postwar Japan and “criticism of victim mentality”” (Conference: Challenge of Reconciliation Studies (新型コロナウイルス感染拡大のために出席できなかったので、英文予稿のみ発表))	2020.3
増田 幸子	論文(単著)	“The war’s end:15 August 1945 in NHK’s morning dramas from 1966 to 2019” (East Asian Journal of Popular Culture, 5巻2号) pp.127-143	2019.11
松島 綾	論文(単著)	「認識可能性の描線—『狂気の歴史』の読みを通じたレトリック再考—」(『日本コミュニケーション研究』47巻2号)67-86頁	2019.5
	研究発表等 (単独)	「可視性／不可視性の表象とエピステーメ」(日本コミュニケーション学会第49回年次大会)	2019.6
	その他 (同会パネリスト等)	「日本のコミュニケーション研究はどこに行くのか?—日本コミュニケーション学会創立50周年(2020)に向けて」(高井次郎(兼司会)・山口生史・宮崎新・松島綾・桜木俊之・石黒武人, 日本コミュニケーション学会第49回年次大会)	2019.6
	その他 (同会パネリスト等)	“Media, Social Media, and Representation: Cultural Mechanisms of Image Construction” (105th National Communication Association Annual Convention)	2019.11
松島 剛史	訳書(共著)	『サーフィン・スケートボード・パルクール: ライフスタイルスポーツの文化と政治』(ベリンダ・ウィートン著, 市井吉興・松島剛史・杉浦愛(監訳), ナカニシヤ出版)全321頁	2019.4
	研究発表等 (単独)	「2019 日本ラグビーワールドカップから 2020 東京五輪へ」(Challenging Olympic Narratives in Japan: From 1940 to 2020 に関するワークショップ)	2019.11
	研究発表等 (単独)	“What is the Olympic ideology?: The impact on Japanese rugby culture” (Alternative Olympic Narratives in Japan (in Ghent, Belgium))	2019.12
松田 亮三	著書(分担執筆)	“The Atlas of Health Inequalities in Japan” (Ryozo Matsuda, Shigeru Inoue, Hiroyuki Kikuchi, Yuri Ito, Tomoki Nakaya et al. Springer International Publishing) pp.161-245	2020.1
	著書(分担執筆)	『刑事施設の医療をいかに改革するか』(赤池一将編著, 日本評論社)506-527頁	2020.2
	著書(分担執筆)	『刑事施設の医療をいかに改革するか』(赤池一将編著, 日本評論社)375-407頁	2020.2
	論文(単著)	「高齢期の健康格差縮小に向けて—「誰一人取り残さない」社会保護から備える」(『連合総研レポート』33巻1号)10-14頁	2020.1
	論文(単著)	「医師の「働き方改革」—医師労働力と医療供給をめぐる複合的政策課題」(『医療福祉政策研究』3巻1号)29-37頁	2020.3
	研究発表等 (単独)	“Gradual Tunings for Sustainability: Japanese healthcare reform since the late 1980s” (The 16th East Asian Social Policy Research Network Conference)	2019.7
	研究発表等 (単独)	「医師労働力をめぐる政策—理論と経験」(日本医療福祉政策学会第3回研究例会)	2019.8
	研究発表等 (単独)	「『バブル経済』破綻後、医療はどのように改革されたか—財政機構を中心に—」(日本医療福祉政策学会第3回研究大会)	2019.12

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
松田 亮三	研究発表等 (共同)	“The Japanese welfare mode: changes and continuities in the “lost decades”” (Masato SHIZUME Masatoshi KATO, and Ryozo MATSUDA, The 16th East Asian Social Policy Research Network Conference)	2019. 7
三笠 利幸	論文(単著)	「マックス・ヴェーバーにおける「科学的問題」とは」(『立命館産業社会論集』55巻1号)231-248頁	2019. 6
	論文(単著)	「マックス・ヴェーバーと「近代文化」:『倫理』論文は何を問うのか (1)」(『立命館産業社会論集』55巻2号)17-33頁	2019. 9
	論文(単著)	「マックス・ヴェーバーと「近代文化」:『倫理』論文は何を問うのか (2)」(『立命館産業社会論集』55巻3号)19-38頁	2019.12
	論文(単著)	「マックス・ヴェーバーと「近代文化」:『倫理』論文は何を問うのか (3)」(『立命館産業社会論集』55巻4号)21-39頁	2020. 3
宮口 幸治	著書(単著)	『ケーキの切れない非行少年たち』(新潮社)	2019. 7
	著書(単著)	『1日5分 教室で使える漢字コグトレ 小学1～6年生』(東洋館出版社)	2019. 8
	著書(共著)	『社会面のコグトレ 認知ソーシャルトレーニング1段階式感情トレーニング/危険予知トレーニング編』(宮口幸治・宮口英樹著, 三輪書店)	2020. 2
	著書(編著)	『学校でできる! 性の問題行動へのケア』(宮口幸治編著・國分聡子・伊庭千恵・川上ちひろ, 東洋館出版社)	2019.11
	研究発表等 (単独)	“Neuro-cognitive enhancement training (Cog-Tr) for Delinquents within a correctinal facility in Japan” (18th International Congress of ESCAP)	2019. 6
	研究発表等 (単独)	「なぜコグトレなのか?」～ 児童・思春期の社会面、学習面、身体面の認知機能の強化で目指すもの ～」(精神科作業療法協会)	2019. 9
	研究発表等 (共同)	「矯正教育の現在—コグトレを使った支援とその広がり—」(第122回 日本小児精神神経学会)	2019.11
	研究発表等 (共同)	「学校における認知機能向上のためのシステム導入—コグトレ(COGET)を使った学校支援—」(日本LD学会 第28回大会, 於:東京)	2019.11
柳澤 伸司	論文(単著)	「なぜ『新聞・紙』なのか—ジャーナリズム・リテラシーへの視点—」(『日本NIIE学会誌』第15号)1-10頁	2020. 3
柳原 恵	論文(単著)	Book Review: “Pedro Iacobelli and Hiroko Matsuda eds. “Rethinking Postwar Okinawa: Beyond American Occupation”, (Historia 52 (1), カトリカ大学歴史研究所 (チリ共和国))pp. 253-257	2019. 5
	論文(単著)	「グローバルアイ [第47回] チリ共和国サンティアゴでの在外研究の経験」(『人工知能』Vol.34, 一般社団法人人工知能学会), 583-586頁	2019. 7
	論文(単著)	「都市/地方と(ポスト)フェミニズム:農村女子青年が生きたフェミニズムを読む」(『早稲田文学』2019年冬号, シリーズ特集(第1回)ポストフェミニズムからはじめる, 早稲田文学会)41-51頁	2019.12
	書評(単著)	「田中美津著『この星は、私の星じゃない』」(図書新聞)	2020. 1
	研究発表等 (単独)	「都市に住む南米チリ先住民マプーチェ女性と“先住民フェミニズム”—ジェンダーとエスニシティの視点から」(ライフストーリー研究会6月例会)	2019. 6
	研究発表等 (単独)	「『日本婦人問題懇話会(会報)』を読む」(女性解放をめざした先輩たちと出会う——シリーズ・ミニコミに学ぶ③『日本婦人問題懇話会(会報)』, 於:立教大学)	2019.10
	研究発表等 (単独)	「ミニコミの分析から見る戦後日本の「地方」における女性運動」(第16回ジェンダー史学会年次大会)	2019.12

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
柳原 恵	その他(単著)	「世界は今 チリ 観光産業は誰のため 欠かせない住民の視点」(岩手日報, 2019/04/23)	2019.4
	その他 (単独講演)	「聞き書きの手法を学ぶ—ライフストーリーの分析と解釈」(港区学習会「港区の新たな女性史作成に向けて～港区の男女平等の歴史・文化をたどる～」)	2019.11
山下 芳樹	著書(共著)	監修・執筆「科学の甲子園 (第10回)理科筆記試験作題プロジェクト」(日本科学技術振興)	2020.3
	著書(分担執筆)	『新訂授業に生かす理科教育法 (中学・高等学校編)』(東京書籍)	2019.4
吉田 誠	論文(単著)	「日産重工業従業員組合の結成に関する一考察:企業内階級和解はいかに達成されたか」(『立命館産業社会論集』55巻2号)1-16頁	2019.9
	論文(単著)	「戦後最初期の日産における経営協議会の展開:『諮問機関』から『合法的生産管理』へ」(『横浜市大論叢 社会科学系列』72巻2号)215-246頁	2020.2

